

後向き観察研究
「当院における自己免疫性腭炎を含む IgG4 関連疾患の
後ろ向き観察研究」
情報公開文書

患者さんへ

「当院における自己免疫性腭炎を含む IgG4 関連疾患の
後ろ向き観察研究」

についてのご説明

2017 年 06 月 21 日 第 1 版作成

札幌医科大学

1. はじめに

私たちの体には病原菌などを攻撃する「抗体」というものがあります。その抗体の主な成分が免疫グロブリンというタンパクであり、これを英語でイムノグロブリン (Immunoglobulin; Ig) といいます。免疫グロブリンには、IgG・IgA・IgM・IgD・IgE の5種類があり、血液中にもっとも多く含まれるのがIgGです。IgGにはさらにIgG1から4まで分類されています。IgG4関連疾患は、そのIgG4が血液検査で高値となり、さらに体のどこかが炎症をおこして腫れてくる原因不明の全身性、慢性炎症疾患です。厚生労働省の指定難病に認定されており、疾患の原因、病態の解明が急がれます。

当院では消化器内科および免疫・リウマチ内科にて当疾患を診断・治療して参りました。これらの症例のこれまでの特徴を整理し、今後の診療に生かしたいと本研究を計画しました。

2. 対象となる患者さん

2002年1月1日から2016年12月31日までに札幌医大附属病院消化器内科、免疫・リウマチ内科にてIgG4関連疾患に対し加療を開始した症例(100例)を対象としています。

3. この研究の内容

診療録(カルテ)から患者さんの性別や年齢、初発症状、診断時のIgG4値、画像所見、プレドニゾロンの投与量・期間などの情報を収集し、研究に用います。研究は札幌医科大学消化器内科、免疫・リウマチ内科で行います。なお、この研究を行うことで患者さんに費用などの負担は生じません。

4. 個人情報の取扱いについて

本研究では閲覧する診療録には個人情報が含まれますが、患者さん個人が特定されないやり方で情報を収集します。個人情報が院外に出ることはありません。また、本研究の結果を公表(学会や論文等)する際には、患者さんを特定できる情報は一切含まれません。

5. この研究に診療データを提供したくない場合の措置について

2002年1月1日から2016年12月31日までに消化器内科、免疫・リウマチ内科にてIgG4関連疾患に対し加療を開始された患者さんの中で、この研究に診療情報を提供したくない方は、下記の問い合わせ先までご連絡ください。ただし、ご連絡をいただいた時点で既に、研究結果が論文などに公表されている場合や、研究データの解析が終了している場合には

解析結果等からあなたに関するデータを取り除くことができず、研究参加を取りやめることが出来なくなります。

6. 研究期間について

病院長の承認日から 2018 年 6 月 30 日までの期間を予定しています。

7. 医学上の貢献

本研究によって IgG4 関連疾患の病態・長期予後を明らかにすることにより、今後の IgG4 関連疾患の治療成績向上が期待できる可能性があります。

8. 問い合わせ先

研究責任者 札幌医科大学 消化器内科学講座 助教 本谷 雅代

連絡先 電話：011-611-2111（内線 32110 教室）

対応時間 平日 9～17 時（平日日中のみの対応となります）